～異常気象に備えたコンパクトなイネづくり「適正籾数で登熟向上」！～

小苗・浅植えと浅水管理で下位分げつ確保！

巻農業普及指導センター

移植期から有効分げつ確保までの管理のポイント

○育苗は**苗丈 12cm・2.0 葉の規格苗**に仕上げる。（老化苗にしない）
○**移植は、小苗（１株４本）、浅植え（２～３cm）**で初期生育を確保する。
○前年に倒伏したほ場、籾数過剰のほ場では、**基肥を適量に減肥**し、品質低下を防ぐ。
○**移植後は３～４cm のやや深水管理**(低温、強風時は４～５cm)、**活着後は２～３cm の浅水管理**で分げつ発生を促す。
○**田植え２～３週間後にガス抜き**を行い、初期生育を促す。

１　育苗後半（硬化期）の管理

○ **終日無被覆**とする。ただし、夜間の低温が予想される場合は被覆する。
○ 田植え１週間前頃から、夜間もハウスを開放し**外気温に十分慣らして**硬化を徹底する。
ただし、夜間に極端な低温が予想される場合は、早めにハウスを閉める。
○ プール育苗では、極端な低温時以外は**ハウスのサイドビニールを昼夜とも開放**する。
○ **移植前追肥は、田植え４～５日前**に窒素成分で１箱当たり１～２g を施用する。

２　施肥

○ 適正施肥量で適正籾数に仕上げる。
※過剰施肥は、籾数過剰や倒伏による収量・品質低下につながる。

【窒素成分施肥量のめやす（kg/10a）】

品種	基肥	穂肥	合計
コシヒカリ	２～３	１～３	３～６
こしいぶき	4	2	6
こがねもち	３～４	１～２	5

※全量基肥肥料では合計量をめやすとする

３　田植え

○ コシヒカリの栽植密度は 50 株/坪とし、早生品種や晩植では 60 株/坪とする。
○ 活着・初期生育を良好にするため、荒天日を避ける。
○ 深植えでは分げつの発生が抑制されるため、**植え付け深さは２～３cm** とする（図１参照）。
○ 過繁茂を避けるため、**植込本数は１株当たり４本**となるよう調節する（表１参照）。
○ **活着するまでは水深を３～４cm 程度**（低温や強風の場合は植え傷みを避けるため４～５cm 程度の深水）とし、**活着後は２～３cm の浅水管理**で分げつの発生を促す。
○ **田植え２～３週間後に**ほ場を確認し、**ワキの発生が確認されたら２～３日落水してガス抜き**を行い、生育・発根を促進させる。

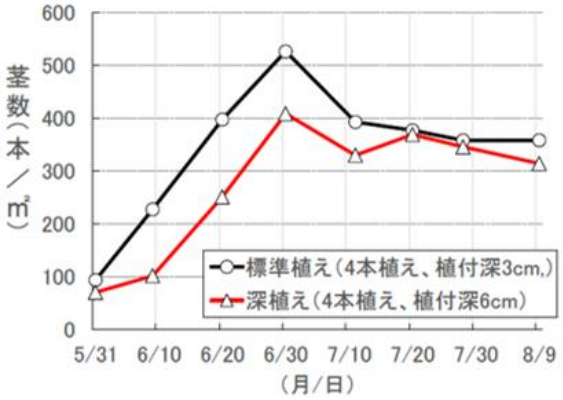

図１　植え付け深さによる茎数増加の違い
（JA 越後ながおか）

表１　植付本数による生育・収量の違い（新潟農試）

１株苗数（本）	最高茎数（本/㎡）	登熟歩合	千粒重（ｇ）	精玄米重（kg/10a）	倒伏程度
4	595	78.4	22.2	584	4.0
8	761	75.5	22.3	567	4.3

深植えは初期分げつの発生が悪くなり、穂数の減少につながる（図１）。
植え付け本数を多くしても、籾数過剰になり、登熟歩合が低下するため収量は増えない。
小苗浅植えにより収量・品質を安定させる（表１）。

必ず、植え初めに、植付け深さと植付け本数を確認し、田植え機の設定を調節しましょう。

４　除草剤散布

○ ていねいな代かき作業で漏水防止や田面の均平に努め、除草効果を高める。
○ 散布適期を逃さないように農薬登録上の使用範囲内で早めの散布を心がける。
○ 一発処理剤のみの使用を基本とし、雑草多発生ほ場や作業体系上やむを得ない場合のみ初期剤等との体系処理とする。初期除草剤を使用する場合は田植え前処理を避け、田植え時または田植え直後に使用する。
○ 散布時期の水深は、粒剤３～５cm 程度、フロアブル剤５cm 程度、ジャンボ剤５～６cm 程度を確保する。
○ 除草剤散布後の７日間は止水とし、処理後４～５日間は湛水状態を保つ。農薬流出防止のため落水・かけ流しを行わない。

【 農薬使用に当たっては、登録内容を確認し、使用上の注意を遵守しましょう 】

５　いもち病対策

○ 葉いもちの伝染源になるので、補植用の苗は作業が終わり次第すみやかに除去する。

「新潟市西蒲区・西区　水稲管理技術情報（YouTube）」で、
令和５年度産米の振り返りと令和６年産米管理ポイントについて
情報配信中！

動画はこちらから（YouTube の QR コード）→